

武庫小学校 『地域の井戸』

平成7年1月17日 午前5時46分 兵庫県の明石海峡付近を震源とするM7.2の地震（兵庫県南部地震）が発生し、神戸市や阪神間、淡路島に甚大な被害（阪神・淡路大震災）をもたらしました。

本校の被害は、校舎の破損等は割合軽微だったようです。しかし、地域住民の避難所として地震発生後から450余名の避難者を受け入れる状況でありました。学校周辺でも、新幹線の高架橋が倒壊し、多数の家屋に被害が生じるなどしており、武庫北小学校の全児童が1月30日から年度末まで、本校で授業を行う状況で、最終的に本校の避難所が閉鎖されたのは、4月28日でした。（沿革史から）

平成23年3月11日に、東北地方太平洋沖地震が発生し、地震による津波で、東北地方の太平洋沿岸部地域は甚大な被害（東日本大震災）を受け、地震の発生から2年を経過しようとする今日も、復興に向けた取組が行われています。

学校は、地震だけでなく、大規模災害が発生した時に地域の避難所としての役割を担っています。

私は、阪神・淡路大震災の経験から学校が避難所として、数百名もの避難者を受け入れる時、ライフラインの確保は不可欠であり、トイレ等に流す水にすらも不便したことを強く記憶しています。そのため、私は本校に着任以来、校内に井戸の設置を検討し続けていました。

この度、**地域スポーツ団体（スポーツクラブ21武庫）**や**本校育友会**のご理解を得て、ここに「武庫小 地域の井戸」を設置することができました。

この井戸が、災害発生時だけでなく、広く活用されることを願うものです。

平成25年3月吉日

尼崎市立武庫小学校長 濱田康助